



一章目の一ページ目のタイトル

一章一ページ目の本文



2010年はゾンビの当たり年である。

映画、小説、ゲームはこれまでもあったが、マンガや深夜アニメでもゾンビをメインにすえたものが多くリリースされている。アメリカでは大学でゾンビの授業が始まったことが大きなニュースになった。13本だかのゾンビ映画やゾンビマンガを楽しんで期末にはオリジナルのシナリオ（もちろんゾンビもの）を書いたら単位がもらえるそうだ。なんだそれ。そんなの授業出席しなくても単位もらえるじゃないか。コロンビア大学の授業は古典からゾンビ映画を観た後に社会背景などを含めて一度批判的に意見を交換して、もし自分ならどうするかを考察していると授業のウェブサイトを書いてあった。それに比べると随分とラクな授業ではないか。アメリカも少子化なのだろうか。また「ゾンビはアメリカの文化」といっている（大意）のがどうにも気に喰わない。一度欧米圏で廃れてたのを盛り返したのは日本発の「バイオハザード」の功績も大きかったはずだ。一度見捨てておいてアメリカの文化もないもんだ。それにギリシアやパキスタンやオーストラリアやドイツ、そして「ゾンビ」のプロデューサーの出身でもあるイタリアでもゾンビ映画はたくさん撮られている。もはやゾンビは世界に偏在する共通の文化的アイコンと化している。

一章目の二ページ目のタイトル

第一章二ページ目の本文

2010年はゾンビの当たり年である。

映画、小説、ゲームはこれまでもあったが、マンガや深夜アニメでもゾンビをメインにすえたものが多くリリースされている。アメリカでは大学でゾンビの授業が始まったことが大きなニュースになった。13本だかのゾンビ映画やゾンビマンガを楽しんで期末にはオリジナルのシナリオ（もちろんゾンビもの）を書いたら単位がもらえるそうだ。なんだそれ。そんなの授業出席しなくても単位もらえるじゃないか。コロンビア大学の授業は古典からゾンビ映画を観た後に社会背景などを含めて一度批判的に意見を交換して、もし自分ならどうするかを考察していると授業のウェブサイトを書いてあった。それに比べると随分とラクな授業ではないか。アメリカも少子化なのだろうか。また「ゾンビはアメリカの文化」といっている（大意）のがどうにも気に喰わない。一度欧米圏で廃れてたのを盛り返したのは日本発の「バイオハザード」の功績も大きかったはずだ。一度見捨てておいてアメリカの文化もないもんだ。それにギリシアやパキスタンやオーストラリアやドイツ、そして「ゾンビ」のプロデューサーの出身でもあるイタリアでもゾンビ映画はたくさん撮られている。もはやゾンビは世界に偏在する共通の文化的アイコンと化している。

ここで少しコンテンツ的な機能としてのゾンビの魅力について考えてみる。

1. パニックがすぐ起こせる。朝起きたら世界終わってた、が可能
2. 過剰な人体破壊（オーバーキル）の理由になる。だってなかなか死なないから...

この他にも以下のような利点があるだろう。

- 説明がいらぬ。「ゾンビ」といえば細かい説明しなくても「ああ、そうか」と通じる
- 葛藤が起こしやすい。とりあえず親族か恋人をゾンビにしたらそれだけで葛藤になる。

このように

ゾンビ

はコンテンツ的にも優れている。

吸血鬼ではこうはいかない。

まったく関係ないがこの映画はとても面白そうです。

http://www.youtube.com/watch?v=O_RrNCqCIPE&feature=related

二章の一ページ目

2010年はゾンビの当たり年である。

映画、小説、ゲームはこれまでもあったが、マンガや深夜アニメでもゾンビをメインにすえたものが多くリリースされている。アメリカでは大学でゾンビの授業が始まったことが大きなニュースになった。13本だかのゾンビ映画やゾンビマンガを楽しんで期末にはオリジナルのシナリオ（もちろんゾンビもの）を書いたら単位がもらえるそう。なんだそれ。そんなの授業出席しなくても単位もらえるじゃないか。コロンビア大学の授業は古典からゾンビ映画を観た後に社会背景などを含めて一度批判的に意見を交換して、もし自分ならどうするかを考察していると授業のウェブサイトを書いてあった。それに比べると随分とラクな授業ではないか。アメリカも少子化なのだろうか。また「ゾンビはアメリカの文化」といっている（大意）のがどうにも気に喰わない。一度欧米圏で廃れてたのを盛り返したのは日本発の「バイオハザード」の功績も大きかったはずだ。一度見捨てておいてアメリカの文化もないもんだ。それにギリシアやパキスタンやオーストラリアやドイツ、そして「ゾンビ」のプロデューサーの出身でもあるイタリアでもゾンビ映画はたくさん撮られている。もはやゾンビは世界に偏在する共通の文化的アイコンと化している。